

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：子どもと表現 英語表記：Child and Expression ナンバリング：2324		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：金美珍、 小川弥輪、小日向千秋 担当形態：オムニバス
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 / 保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	領域に関する専門的事項・表現/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの表現の姿とその発達について理解できる。 2. 身体・造形・音楽表現など、様々な表現の基礎的知識と技術を身につけ、子どもの表現活動に展開することができる。 3. 子どもの表現を受け止め、留意点と評価の方法が理解できる。			
【授業の概要】 「表現」とは何かを学び、人間の成長にとって「表現」することの大切さとその発達過程について理解できるようにする。領域「表現」のねらい及び内容を理解し、身体・造形・音楽表現など、子どもが表現する様々な姿と方法を受け止め、子どもの表現活動を支援するための知識と技能、表現力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション―「表現」とは何か(担当：小川) 第2回：領域「表現」のねらいと内容(担当：小川) 第3回：子どもの発達と音楽表現(担当：小川) 第4回：子どもの音楽表現(歌う活動)(担当：小川) 第5回：子どもの音楽表現(音を鳴らす活動)(担当：小川) 第6回：子どもの発達と造形表現(担当：小日向) 第7回：造形表現の基礎技法(担当：小日向) 第8回：子どもの造形表現(様々な素材)(担当：小日向) 第9回：子どもの造形表現(描く活動)(担当：小日向) 第10回：子どもの造形表現(作る活動)(担当：小日向) 第11回：子どもの発達と身体表現(担当：金) 第12回：子どもの身体表現(リズムと動き)(担当：金) 第13回：子どもの身体表現(音楽と動き)(担当：金) 第14回：子どもの身体表現(イメージと動き)(担当：金)		【授業時間外の学習】 ・毎回の課題の予習と復習 ・次週のテーマについての調べ学習授業で紹介される音楽表現活動の習得 (それぞれ各回各1時間程度) 授業で紹介される造形表現活動の準備と制作 (予習、復習に各回各1時間程度) 授業で紹介される身体表現活動の習得 (予習、復習に各回各1時間程度)	

第15回：子どもの身体表現（自由な動き）（担当：金）	
定期試験：オムニバスのため、それぞれの授業内で行う。	
【授業の方法】 講義とグループワーク。提出されたワークシートや課題にコメントを入れて返却する。	
【テキスト】 『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）	
【参考書・参考資料等】 表現者を育てるための保育内容『音楽表現』石井玲子編著 教育情報出版	
【学生に対する評価】 成績評価は、ルーブリックを用いた授業内課題・発表の評価（80%）と授業への主体的な参加度（20%）により総合的に判断する。	
【履修上の注意】 感性を豊かに、様々な表現活動を捉えるようにすること。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	